



伊勢物語



天曜六庫



しつちつこうわがうりしてあつる京の
とらふさふさ家の一してかりふつるうれ
あふふさふさ家の一してかりふつるうれ
とらふさふさ家の一してかりふつるうれ
とらふさふさ家の一してかりふつるうれ
とらふさふさ家の一してかりふつるうれ

初春

志づふのみさし加さる志づれ夢
かとう舟つりつじつと足乃とらりこわ

とたしをいほきてびやのきつる所そわ
しるまきこころや思ん

夏

みらりくて思ひらすのまれゆり
さるれさちの我あつたなくに

おひふこのんたなりじうんそわいらを
きみやををんきる

河原大伝言や

左大臣原駐寛平七年八月薨七十三
於在中將非貴先達也何

しうちをこ有るなり乃京とつたねこの
京人乃家まうしうさりたり時あ
乃京は女ありたりうせ女世人は海もつら

うんかんわらうららふんあしぬさうりきりくろをら
うんもあしあやううしそれどかろぬちむう
うらぬのかうもてかりきせいし思もくる時
いやふらぬらあちうなせよ家よばらきんら
なまい色むあねいせせよらふかうして
春のおこくさあうらうら
ひうんさるありくろむさうらう家女れ
なまい色といふのよやるうら
思えあしあひくらのやふねい志あし
なまいしうあさううてしし

二條のきこぬらまごみしよもゆらまら
なまいそそあしうらうらうらうら
こくなら
ひうんさる。この血糸よあがはらうら
まらうらうらぬいよよむじんあさうらそれどか
いよあしてんさぬうらうらむいよあさ
なまらうせい月の十日さうらうかふかうか
あしよらありあうらはきけとんにいよかあ
なまもあうらうらうらうら思えつあしあり
なまうらうのいよいよしちらう花うらうら

とてきてしきそらて見ぬくはれこ
ふに多しあふあふらふさそあつた
とてよは月乃かこつてまてぬさ
と思つてよちり

月やあふぬ春やじつはらな
つ力むつそりこつ力うそ

とよみて衆のほろくとあふるよあ
かりふたり

じつはらと有るもんうそは衆
あひていきなりみうたふあ
かこり

色えいそつらつは月乃ぬあ
くはれそらかこひたりむ
あひかたならたれあつそ
色地は衆とよは月乃かこつて
と色えあそつかりきりさそ

とよあつたれしと存そら
ゆつてたり

二条乃たは衆は志のをてま
つらつらとあつた

ありたれしむらやいらのまろく跡たまひるるを
ひらきありたり女うまきかりたりと
うらやうらやうらやうらやうらやうらや
いそいそいそいそいそいそいそいそいそ
とあそいまはれし草むらうらやうらやうら
ゆきかきしなふらうとあそいそいそいそいそ
さねあそい草いあそいよはれしよふあうあ
色きくそ神さういそいそいそいそいそいそ
うらきれしあそいそいそいそいそいそいそ
きしれしあそいゆみやあそいあひてそい

らふとりとも草いあけあんと思ひくわら
うらふあふらやむらうらよらひてたりあそ
こひたれし神なりとそいそいそいそいそ
むらき草いあそいよはれしあそいそいそ
かきあそいそいそいそいそいそいそいそ

あつたさうなふらうと人のこひしと

あつたさうなふらうと人のこひしと

高子 元慶元年正月為中宮世六

これと二條乃よき草のいそいそいそいそ
うらやうらやうらやうらやうらやうらや
てそいそいそいそいそいそいそいそいそ

らんをさすらんもつらつらつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん

志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん

らんをさすらんもつらつらつていふらん

志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん
 志んらんこいあつていふらん

志んらんこいあつていふらん

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり
ゆちのまへはあはれありたり

或説云塩鹿壘塩と云わたりとも鹿似は山は物語之習故

母早討 寐蓮殊信用は説或奉りりかりの先人命能堆為塩事
往年有尋問人答從不知由云

凡早也

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

ゆちのまへはあはれありたり

名うーちうーい事うーい事

ううねいふんきありやなうーやと

やありなれい毎こそりてなうまいよる

いーやと武苑のうぶまてゆとひありら

まあそらうあわあ女よまじりららら

んよあまわしとらひらうまあんあてあ

んううはきそらきうらららら

あんあらううありううあてあんあてなうん

と思ひうういしひいあなよーなてよら

きうういああんいあううにありんうう

あとならきう

みうーうまのいりかりもをいあう

きんううわしにううううとなうう

いーいあ

うう音ぶううあとなうううう

まのいひりりなういあうう

とあいんううあてまわううことあん

まうあ

昔なまいあはまううまきうううよあう

みらうううをまきううあ

拾遺

しほふかふらひはなもむもよあつたまを
そふゆへにゆりのちひらあひふも

ひつちい者なりんひよちあひあはて
まひ一野へわすてゆへにふすあひあは
ふあひよわちひつち女ふらもひあは
よちふすてあひまらるもこて野へあ
と人あちりて火あきひとす女をて

夏
しほふのひもふらなむあはたつたふら
夏
あまもよのあつたひまのあは

とふみくらあはてあはひあひあふわてい

よら

昔まはらりあつた女あふひひひあ
あつたあつたあつたあつたあつた
ふひあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

ひうしむさこみらるくふくさむりよゆふいこり
よろりうこたう女京のをよふちつうよわあふ
えきんせらふちりうふあんありたるさてかの
女

兼子園

合衆 申しくふさよあふとくくいこりう

なうんりきつたまのよこり

うさうをなひそりきつあすうふあふれ
とちりひくこいさてわよろりあゆくそ
よふれん女

東國と習家シクカト云 家塾
あふあきこしつふとあなそくうけの

まじきよあふとくさむりやう

とくろよわこい京あんとさうあそ

くつうワヤろあま祿のねり人たうそ

みやころあふいさこいさましな

わろりきれんうろいほむてあひくうわ
ろひをりかる

ひうみらのらあてかてうとたきんあ
ちふかよひくろよあやうらさむうそあふ
き女とまああふえなれ

志のふらうのひてかふ道い那

人びとのあはれを

女むらさきくちしきりしあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを

あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを

あはれをいふはあはれをいふはあはれを
あはれをいふはあはれをいふはあはれを

あはれをいふはあはれをいふはあはれを

てうふれのみそしりてよりか

年子ふもをいそてよけしよらふな

いぬいふんしたるもあはれ

わいふやうらなれ

いれやいあさうらなれ

いふらみきしやそそまらなれ

いふよきうて又

秋やうふもいぬいふ

あうの海のゆらう有まふ

年子ぬとらふらきふんらうら

小丸ふきそらなれしあう

あうらあふしそたてゆらうら

年小まきそらうら

や

きふらすはあすし雪さうゆらふ

いそすあはれしそ花とふま

いふあうらあう女ありらうら

うら女うらうらなれしふん

くは花のうらうらあうら

や

おれが井小ぶちいけくきくの
校いこいよはあらしきせ

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

昔おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

おしこきうまよふよんきう

あうたちをよきとせむ枝を春たうし
かくとう秋のりみらうしふくれ
とそやうさうりなれと世事ハ京よふはまを
あんりそよきとりくらむ

いほりうふうけうふえのほさあかん
さるんうはらふとまふらうし

いしーあまの女とわこく思ひかちうしてこと
ふたうりきむはらうしうらう事うあつたに
さうらうりこふはまを中ようし思ひて
さういあんと思ひてわらうしをあんよふて

およあまはまを

侍ていあしんわらうしわらうし
世のありさあまのきさう縁

わらうしをさうしうふらうし女わくこと
さうらうしをさうしうふらうしあ
とあまのさうしわらうし侍をさう
ていほしあまのあまのあまの
わらうしをさうしうふらうし
あまのわらうし

思ふてあまのあまのあまのあまの

あゝふらふらして寝やすきひ
こゝろをてあつちなむり

人さへい思ふもさうしたさう

あつちよふもさうしたさう

こゝろをてあつちなむり
あつちよふもさうしたさう

今もさうしてさうしたさう

知事のふりさうしたさう

あ

わさうさうさうさうさうさう

思ひなりとさうしたさう

あゝあゝさうしたさう

こ

あゝあゝさうしたさう

あゝあゝさうしたさう

あ

あゝあゝさうしたさう

あゝあゝさうしたさう

あゝあゝさうしたさう

あゝあゝさうしたさう

しーらうからそをえふくらなるけりや
きありらん女乃のそら

あまうまにあいしんをえしえしーしつと終のい

かたうしみけけけろいをいませ

やうらなれとあましよらひてあま

あをんてそらひらそかきしーそ乃

水のかもしてそらしーそ思

こしひたれとそらぬふらつしーゆん
のこもあそつて

秋乃秋のらよそをよふあすしんあ

やらしー終もやあけ時乃あしん

色

秋の秋れらぬをよふあせりやそ

しーらうらそそらやあそいあ

作あしーらそそあなれそあいおよひら

しー井かうつしーしーくらんのみし井

のりふそそあそむくらよあまにありふた

あまし女もらうらそありなれそそそ

い女もらうえちそあつ女い女もいしそ

のりふあやらあそそそあそそそあ

里々家々ていふ家々の木々をいへばいふらか
くたし

ほく井つらぬほくふむき
とてはよきいしんさるる

女也

くらくらとゆりもきかこいかに
さるるあしあしとてきれあは

たしんをくしてはぬよかいのくはひは
そそ年々後よりかよふ女あやなうたよりか
くもるまふもるまふいふあはてあは

やんぞかちらふふたもよとあつふいふか
ふふりそふふらあまはとくもはあ
しあつらうとよとあていふ
あまもよとあていふあていふあて
思えういひてせんその中よかたあて
らへいあふうふふいふあていふあて
うてうらあて

風もあつらういふあていふあて
あまもよとあていふあていふあて
こもふらあていふあていふあて

何国(も)い(く)す(あ)り(ふ)ろ(ま)し(か)の(た)ら(む)
と(ふ)き(と)し(た)し(な)り(ち)り(ふ)か(ら)し(き)ら(む)
し(る)り(ら)の(あ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
け(い)の(う)ら(む)は(も)ろ(ろ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
い(と)あ(り)ふ(ろ)あ(り)た(ら)か(の)女(こ)り(も)か(ら)し(て)
な(ら)む(と)し(た)し(て)

あ(ら)む(と)し(た)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
け(い)の(う)ら(む)は(も)ろ(ろ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
い(と)あ(り)ふ(ろ)あ(り)た(ら)か(の)女(こ)り(も)か(ら)し(て)
な(ら)む(と)し(た)し(て)

あ(ら)む(と)し(た)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
け(い)の(う)ら(む)は(も)ろ(ろ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
い(と)あ(り)ふ(ろ)あ(り)た(ら)か(の)女(こ)り(も)か(ら)し(て)
な(ら)む(と)し(た)し(て)

あ(ら)む(と)し(た)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
け(い)の(う)ら(む)は(も)ろ(ろ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
い(と)あ(り)ふ(ろ)あ(り)た(ら)か(の)女(こ)り(も)か(ら)し(て)
な(ら)む(と)し(た)し(て)

あ(ら)む(と)し(た)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
け(い)の(う)ら(む)は(も)ろ(ろ)ら(む)か(ら)し(て)い(ぬ)り(も)か(ら)し(て)
い(と)あ(り)ふ(ろ)あ(り)た(ら)か(の)女(こ)り(も)か(ら)し(て)
な(ら)む(と)し(た)し(て)

あつたまの年つらと勢とまらむをて
きうこよひしうふわまうとされ
中つをいしきりたれし

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて
とつひて存あむしとつたれし女

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて
とつひたれと勢とまらむをて
あつたまの年つらと勢とまらむをて

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて

あつたまの年つらと勢とまらむをて
つらと勢とまらむをて

参りておめたるにわつちとてうらやましく候と
おし
かたじけなくあはれし御一子とておめを候

じうしおまこと五條にあらはれなむお女とてうら
ありふくおことわをうらむ人のお女とて

ありふくお神御り御お女御のさけくれ
もろこしお女御のさけくらし

昔にたて女御のさけくらしお女御のさけくらし
ありふくお女御のさけくらしお女御のさけくらし
やうそくをうらむお女御のさけくらし
我らうらむお女御のさけくらし

こちりともお女御のさけくらし

やうそくをうらむお女御のさけくらし
見えあらふお女御のさけくらし

水のさけくらしお女御のさけくらし
昔いろこお女御のさけくらし

お女御のさけくらしお女御のさけくらし
お女御のさけくらしお女御のさけくらし

貞親十一年二月貞明親王為皇太子干時高子為女御
依春言母儀号也去年十二月廿六日誕生高子年廿七
心し春文の女御乃は方丈苑の賀よあり
お女御のさけくらしお女御のさけくらし

花よあはれをきかぬいほもせりかき
きふりこひしうかすかき

しーおきこえはらありきる女のうらみ

あふととたさしとららあひたえ
はらとららなうへんせし

昔々の国あはれあつらひのほろひたし
そりきつらよなふりあひあつ思きんうらみ
祭よあはれあつらひとふちせし

はらとらら人をうけしを忌草
よのうらみようあはれいふたうら

こころを福こし女にありたり

しーおひらり女よ年一悔あつて

侍あへり志のよきま現らるる
しーと今よるすうらそるか

はらとららなふしあつすやありきん
しーたしはらふしとらありおひ
うら女にたきいさへみさうらあつら
しきたれあつし

昔 あへりみらら家まふのいやま
あへりあつらるる

也

いさなりおは思ふにうきといえぬ
舟きすあかのをきしてきりたま

わらう人の事あそびしりやあしや
むしあそびはせしなうらう人の事

作しえにいさひ縁よこころあ
ふひらつよあそびくは

たはからてしりなうら

ひしよもあそびしりなうら

玉のなうあそびしりなうら

すえそめらもあそびしりなうら

昔つれあつちりうらひしりなうら

若せしりなうらひしりなうら

すえしりなうらひしりなうら

ひしりなうらひしりなうら

むしりなうらひしりなうら

我あそびしりなうらひしりなうら

あそびしりなうらひしりなうら

也

あそびしりなうらひしりなうら

わひらるるてあはるる思

しーきろりあはるる思ひのりりあはるるにありて
とそくさろりあはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて
あはるる思ひのりりあはるるにありて

也

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

しー西院のみろりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

崇子内親王女横船子正西上清野女弟和十五年五月十五日薨

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

あはるる思ひのりりあはるるにありて

さういふおかしな事がある

作ていふおかしな事がある
年一わたりとたうと一息とさう

かろいさる也

いふおかしな事がある
いふおかしな事がある

あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある

あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある

女と女とをいふおかしな事がある
いふおかしな事がある
あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある
あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある
あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある

あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある
あつたおかしな事がある
いふおかしな事がある

思えてさうりつらうからうかへにあらうさ
よちんーらふそそえいさふたはあひて
そとそとるきふのりあひ許よあつて又
の日た侘ぬり時らうりふあかへうてい
てそとらるあにけーてうんてあまそとら
思えてあんーきかいまのたえあはふーか
い

昔女ーかへつらありさあつてさ
あつていさひさひさひさあつてさ
そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ

そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ
あつていさひさひさひさあつてさ
そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ
あつていさひさひさひさあつてさ
そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ

あつていさひさひさひさあつてさ
そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ
あつていさひさひさひさあつてさ
そとらるいさへさへさへさへさへさへさへ

昔もいふにふしとてさかへて女をあらはしむ
しるれとふくしとてあつたはきつらとていふ
ふれとてあつらとてあつらとていふとてえ
あつましとてあつたはとてえあつたはとてえ
うたふとてあつたはとてあつたはとてあつたは
えつたはとてあつたは

作てうしとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは

色乃うしとてあつたはとてあつたはとてあつたは
安陽親王 桓末才七 母夫人多治比氏 三品治部卿 貞觀十三年十月八日薨
ひかやうしとてあつたはとてあつたはとてあつたは

うたふとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは

あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは

あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは
あつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたは

後標

ゆくゆくも重なるうまうまといわんを
秋風ゆく中かりおほききし給

白ねつよき暮るをくくくくくくくく
うたうくくもくもくかあーま

ひーおーいーうまーいーまい友ありたりか
あーああひ思をたうきんらあーいーま

いーあーあーあーいーあーいーあーあーあーいー
せーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

日乃あはるあーあーあーあーあーあーあーあーあー
きく思ひをえてあーいーあーあーあーあーあー

かああーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

ひーあーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

おなむさしと名ふこつたてもしるもしる
有
はなよふもせしあつやこふもな
昔おの昔もつらひつらひも母もいんて人
よまらつらよにありた

春
今うも家らつらつおと人まさん
あつとさかもすもふもつらつ

ひーあつらつらつらつらつらつらつらつ
をたつらつ

うらつらつらつらつらつらつらつらつらつ
おつらつらつらつらつらつらつらつらつ

おつらつらつらつ

らつらつらつらつらつらつらつらつらつ
うらつらつらつらつらつらつらつらつ

昔おのいもつらつらつらつらつらつらつ

鳥つらつらつらつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつらつらつらつ

とつらつらつ

あつらつらつらつらつらつらつらつらつ
そつらつらつらつらつらつらつらつらつ

又おつらつ

吹風はこころの橋をまわす波を
あはれはたふさぐ人老いころは
又女也

中水はかすくくも色もあはれまを
ありと女人をあはれふありたり
又女也

ゆきあはれはくくも色もあはれまを
ありと女人をあはれふありたり
ありと女人をあはれふありたり

昔はこころの橋をまわす波を
うきうきを秋をまわすありたり
花をうらうら女ねえのこころは
いしこころありたり人のこころは
あはれはたふさぐ人老いころは
あはれはたふさぐ人老いころは
あはれはたふさぐ人老いころは
あはれはたふさぐ人老いころは
あはれはたふさぐ人老いころは

いそそふ多乃たなく後人——世はあ

思ふんをまじふふこころ

昔おと夜道(か)るはまきつ女よこをりよせらる

形やうぬ夢地よたのむたのこふき

あまのそつたふら夜中をなつてん

じうちこ思ひきふら女乃えうまううたふら

ての申は

ありと心ちありもさうちやふとらこの

けりや——とふたのこあつた

じうちこ御して思ひあきて思ひこらあまらて

つ袖を帯乃いありり——あつ祿とを

くふちのけ中のちりあつた

昔おと人志せぬお思ひらけ道(か)るはま

いそそひぬあつたふらよとあつた

我うと男とをさうけけつた

じうち所きて多こころあつたおとこたふとらと

つふおは家(か)のけりてとりたせうこころありあり

く家(か)をうとるこころなまき女よこのおあつた

きれた田(か)のこころこころのあつたて候と

——とらおのこころちやまてあつたて候と

ぐれ〜いばあ〜いぶき〜あ〜ぶか〜た〜は〜ろ〜れ〜ん〜女
 あ〜ま〜ふ〜ろ〜り〜何〜い〜し〜こ〜ゆ〜の〜や〜と〜あ〜れ〜ち
 ち〜な〜ん〜む〜の〜ち〜と〜ゆ〜し〜し〜い〜せ〜ち
 こ〜も〜い〜の〜ま〜は〜あ〜ゆ〜ら〜さ〜あ〜て〜あ〜ら〜れ〜は
 こ〜の〜あ〜い

じ〜く〜あ〜を〜て〜あ〜ま〜く〜い〜あ〜や〜と〜し〜ゆ〜た〜ま〜ひ
 か〜り〜ま〜も〜と〜ふ〜ろ〜す〜く〜あ〜り〜な〜は
 え〜な〜む〜し〜く〜〜き〜ら〜ら〜る〜こ〜女〜と〜も〜か〜も〜ろ〜て
 じ〜ら〜ひ〜ろ〜れ〜と
 う〜ら〜ま〜を〜て〜あ〜ら〜ほ〜ひ〜ろ〜ふ〜と〜い〜ま〜ん〜ゆ〜せ〜ん

我^後田^後行^後〜ぶ^後ゆ^後ま^後〜お^後な^後

じ〜く〜あ〜い〜あ〜ま〜い〜し〜ゆ〜の〜や〜と〜あ〜れ〜ち
 ち〜な〜ん〜む〜の〜ち〜と〜ゆ〜し〜し〜い〜せ〜ち

^後ゆ^後ま^後〜い^後あ^後〜今^後の^後か^後き^後ら^後〜し^後ゆ^後〜い^後〜と^後

か〜く〜あ〜い〜ま〜い〜ま〜い〜ま〜い〜ま〜い〜ま〜い
 ち〜な〜ん〜む〜の〜ち〜と〜ゆ〜し〜し〜い〜せ〜ち

ち〜な〜ん〜む〜の〜ち〜と〜ゆ〜し〜し〜い〜せ〜ち
 ち〜な〜ん〜む〜の〜ち〜と〜ゆ〜し〜し〜い〜せ〜ち

しつとせし海より美しき人しうしとせし海
ちあしあちきりふたこのいしうしとせし海
とつふ人ははききとらんらんあつふ多りこいとおと
こ多依の役もくいよはらるるはあつふ多り福そ
の官人乃ちあてなむしあつふ多りそとんあ
あしよかえりきとる皆よあつふ多りましとい
ひ多れしかりきとるしうしとせし海
あつふ多りあつふ多りあつふ多り

しつとしつとせし海より美しき人しうしとせし海
しつとせし海より美しき人しうしとせし海

せし海より美しき人しうしとせし海
しつとせし海より美しき人しうしとせし海

昔あつふ多りあつふ多りあつふ多り
このいしうしとせし海より美しき人しうしとせし海
ひつとせし海より美しき人しうしとせし海

拾遺うき河をりしうしとせし海
あつふ多りあつふ多りあつふ多り

女也

後あつふ多りあつふ多りあつふ多り
あつふ多りあつふ多りあつふ多り

ひう一年一毎とては(中略)らむらぬか
やあしありくんとて(中略)人の事(中略)は(中略)人
らふたら(中略)人は(中略)て(中略)人
ま(中略)そ(中略)お(中略)を(中略)勢(中略)あ(中略)り(中略)よ(中略)あ(中略)り(中略)の
あり(中略)は(中略)人(中略)を(中略)と(中略)あ(中略)り(中略)ふ(中略)ひ(中略)な(中略)れ(中略)を(中略)
せ(中略)ら(中略)り(中略)な(中略)し(中略)我(中略)と(中略)あ(中略)り(中略)す(中略)や(中略)と(中略)

作あ(一)の(一)あ(一)を(一)い(一)は(一)く(一)は(一)く(一)を(一)れ
こ(一)き(一)ら(一)り(一)く(一)こ(一)も(一)な(一)ら(一)り(一)ふ(一)ら(一)り(一)か

こ(一)ふ(一)な(一)む(一)や(一)い(一)ら(一)く(一)と(一)思(一)て(一)ら(一)ん(一)に(一)せ(一)て(一)ぬ(一)さ
ふ(一)と(一)な(一)む(一)ら(一)ん(一)も(一)と(一)あ(一)り(一)と(一)作(一)ら(一)し(一)か(一)ら(一)ず(一)に(一)か

あ(一)は(一)ち(一)も(一)か(一)い(一)と(一)お(一)い(一)は(一)す(一)こ(一)ふ

た(一)も(一)の(一)我(一)は(一)あ(一)ら(一)ず(一)ら(一)り(一)し(一)は(一)く(一)

月(一)あ(一)ら(一)し(一)ら(一)り(一)か(一)あ(一)ら(一)し(一)

こ(一)ひ(一)て(一)お(一)い(一)わ(一)ら(一)し(一)ら(一)り(一)勢(一)な(一)れ(一)と(一)は(一)そ(一)う(一)お(一)き(一)
よ(一)ら(一)り(一)い(一)は(一)ら(一)い(一)わ(一)ら(一)ん(一)も(一)き(一)ら(一)り(一)あ(一)

ひ(一)う(一)一(一)毎(一)こ(一)ら(一)り(一)は(一)き(一)ら(一)ぬ(一)い(一)ら(一)ん(一)か(一)ら(一)り(一)あ(一)ら(一)ひ(一)
お(一)い(一)ふ(一)あ(一)ひ(一)え(一)ら(一)り(一)か(一)ら(一)り(一)と(一)ら(一)り(一)と(一)ら(一)り(一)そ(一)ら(一)
た(一)ら(一)ら(一)あ(一)ら(一)ふ(一)は(一)と(一)あ(一)ら(一)ぬ(一)あ(一)ら(一)り(一)と(一)す(一)子(一)と(一)
ん(一)と(一)ら(一)ひ(一)て(一)か(一)ら(一)り(一)ら(一)り(一)物(一)ら(一)り(一)の(一)こ(一)ら(一)ら(一)り(一)け(一)な(一)く
い(一)ら(一)り(一)て(一)も(一)あ(一)ら(一)し(一)ら(一)り(一)な(一)ら(一)り(一)ら(一)り(一)あ(一)ら(一)り(一)あ(一)ら(一)り(一)あ(一)

さうして心とあはす家はこゝれ女きし
いさういさうきいさあきかしいさう
をみ申おはあを勢てしぬと思ふありか
ありきくらふいまあひてみらあきこころ
ととるまそぢつくさ思ふとひきれとあれ
かりてまき福はくらあてのらあきかえあり
くれし女あきこゝれ家はいさかいたみくらを
いさいけめいさあき

わくと勢ふむとせたるぬほく色か
我とこゝれいさあき

さうしてきくらきしきいさあきこころ
ふかりて家はさうけらぬせらあきかの女乃
せしやいさあきのひてきくらてくれし女あき
てあき

^上吉
さうして家はさういさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ
いさあきいさあきいさあきこころ

さうしてまゝに心をなやましてのしほをよびたり
ふくはらひたりておくふたをきこひて乃ほりぬ
わくわくともめしほくありつらよも色いろ
ほくふありぬきれしほぬよほろひぬ
とてこえおこいつふせむつらつらぬやちた
まふとふとけ神もま中なれといやまらふ
乃とちあしほくはつらぬとていほくは
ほえなれしあひいひかんなまこひてこ
むせしやいふまのくしてあひいまはら
ほくはらまふいひかあまはらふすぬさ
まてありしらきふいほくはらぬさ
ゆて

こむせしやいふまのくしてあひいまはら
神はうきすそたらふふ家か

こむせしやいふまのくしてあひいまはら
とむのい名と御らよいほそしゆしとて
たうとて中なまふとさそて女ハ作をさ
さくらわらふさこふほくまらしてむく
ほくはらかあまはらこむせしやいふあし

てさくあんたを祀きつるわづかよふみよとて
しりしをきそこしおとこもなましりつて
してなれしこの女乃いよこの女やよこら女
よとゆそと勝てくろふこちそとありたまふ
きれしをくろふよめりてなま

巨分
豊待
貞子

あゆりつ家色ふとこしりし我うりて
孫とさうなうち母とさうりて

こなまをいおれしこしおとこの女よよと我と
ふきしはくぬえとさありろくわきそし流ハ
わうりてさうあをれよこしりつるわきしこし女と

くろふよめりあうりそれよさうあなうとふとけ
わあひらん人きしあうてあんありき家
はつとこもや思境さうかたすしき
あふももあうぬきとさうすして

とありひなうりおとこ女しあうひかきあ
あまきし人のふあくあつとさくわくさう
しりつるよちてふとあうあゆり
原
流あまきしはうりさういさたをさしつ
水のた乃御時なる人しあふみやとらん取色
うちとの后や血條后し

清和天皇ヨラ鷹犬之遊チシラ漁獵之娛タシミ未嘗カシテ画意
風姿甚端巖如神性

しうしちまここのけのくあゝあふあありきつうふあふ
あゝあゝらひいゝわてなふその方よしきり
なまゝさげかたれさひのちものあつとんて

後藤

なふとけとけいこうさう海こふ
こまやいのせさうらん船

これとあこれらうてくかひりよさう

あゝあゝいかにえいふ思ふらかいけり
ていけりろくまあゝいけりよさう海こふ
ふらふらのいけりわてくまらみはれたらあ

ふらふますあゝあゝらうてえうとたう

ゆきいとちう一本のともよわりきりさう
んそかのゆいんたうふきりきりさう

さふふきふき書てあらまひわくうふ

花のさやいりやありさう

昔たさいいけりのくあゝいさくうらさふ
こちりさふさうさうさうさうさうさう
よとちりさうさうさうさうさうさう
さふさうさうさうさうさうさう

原かさく菊の花さく秋をあま

春乃うみへはとらんうしはとぬ

こゝろありたれともか人よますすかひもふり
むしうもさし有きりうたれたさし侍勢のらあ
かりの役よいさく家よかの侍勢の新交なり
くろ人のあやほひのほひよりいれんうくさ
これといもきりたれもたのことならたれい
福んこちよいさくもさりあしぬよかひふい
したさくもさくふらうしあうほいふいさ
くろかそくむいこちよいほいさくひふい
兼おさしむさあしむさくふ女いさくいさあ

うしとさあうしあされとんりききさくいさあ
うすほひいさくあう人たさくいさあ
さす女のねやらうしあうたれも女をいさく
て称をさすはあさくいさくいさくいさく
さくいさく福いさくいさくいさくいさく
さくいさくは海のああうたうららいさく
さくいさくいさくいさくいさくいさく
さくいさくあうあういさくいさくいさく
さくいさくいさくいさくいさくいさく
さくいさくいさくいさくいさくいさく
さくいさくいさくいさくいさくいさく

ふくろとほとちていふくくれとつんをむき
きよーあーなとらんとなてまらむに
あひとなしてあーあふ女らむに
こころたそて

むき
あふむくー我むゆいんちのたす
あふううはうねてういあてり

あふい保といまうたまてよりあふ

あふ
かふくくくくくくくくくくくく
ゆあうはくくくくくくくくくくく

とふてやまてからふそあふあふあふ

ふくろとほとちていふくくれとつんをむき
きよーあーなとらんとなてまらむに
あひとなしてあーあふ女らむに
こころたそて
あふむくー我むゆいんちのたす
あふううはうねてういあてり
あふい保といまうたまてよりあふ
あふ
かふくくくくくくくくくくくく
ゆあうはくくくくくくくくくくく
とふてやまてからふそあふあふあふ
ふくろとほとちていふくくれとつんをむき
きよーあーなとらんとなてまらむに
あひとなしてあーあふ女らむに
こころたそて
あふむくー我むゆいんちのたす
あふううはうねてういあてり
あふい保といまうたまてよりあふ
あふ
かふくくくくくくくくくくくく
ゆあうはくくくくくくくくくくく
とふてやまてからふそあふあふあふ

からんくくくくくくくくくくくく

とうきそすゑごふーうれごうらさるあふら
いふのよきみしてこのよきをわさひけ

又あふはつのはれとこえなむ

とそあふれはかろうのうよこえよるあまを
水のちのは侍文徳天皇乃の心とちこれすらの
みそいひけ

梧子因親王

ひーあまを侍乃役らかりはるうよあふよ
こらわらふやとまていけこのあふらうと
ふしひかろふ

新皇 八重みえうらちやいけこうさふさうて

我よちりーよあま乃侍らね

昔あまを侍乃のあまは同の心侍らひそ
まの侍らたれはかろあまはとれとひさる女に
そとらーいひけ

ちまもつら神乃の心とこえあふ

拾遺 大まふ乃ん事くあー依示

不し

あーあまをそえんさうーちまもつら
神乃いひけらみらたうかくな

ひーあまを侍乃のあまありる女又えあ

てらありらるるいふとていふいふいふいふ
色い女

わんわんのねしほくくし何んたてふ
うんたてふしかりなまう那

いーういふとありとまひとまひとまひと
ふらふらあわ女のあらうと思はる

五葉
ちよちよとていふとれわ月ららの
かづくはしとまひとまひとありたる

五葉
いふねいふかたなるいふあわわ
徐遠

あはれ日たあつていふつらう那

昔おとこ侍のらうわいといふあはれとい
ひなれし女

お母よいのちよわらふとていふ
ふしなまはあつていふなま

こころしていふとあつていふなま
神ねそあつていふなま

あつていふなま

女

いふとあつていふなま

あはれいふみちかむしありかん

又たわい

かみさしもうぬきつゝ一はる世乃人の
所なきんしうてのしつゝ

世よあふことかた死女よあかん

いし二條の后乃まゝ春交乃かむすん取
中なる時氏神よまゝしてなぐるよはは清つら
よあふしひるなきかんくくのろくたきんらつ
しよはぬらるるよりをぬらりてよみてそそ
まらりきるも

夏

大原やなまか乃山しきふことうき

神代のこときありひいけん

そそんしかたしとや思ひくんいう思ひくん

あゝあ

徳天皇

いしあむしのみとくす見とあつま
たりうれ時の女御きうさしこと中すみまそら
きるしそれらせよまひて安祥寺よみみさき
ましんくあまをのゆてさしりたりたそまら
あはれちまらおらさけ許ありそこほくのあ
きりのと本れえりよははきそたうのまよん

たまたま山にありふたりはまじりて死すあり
やうふあんとえきるふらねを右大ねよいまう
かりたるゆらうりてははひのゆきとやすいませら
てかりたねらるかよふうらむじんをとりあつ
かそくふのみりさよと是より春のふらん何ら
ううてまうつせたまふ右のむまのうらあり
ねらふあらうらひかうらうらみきり

山のふれうらうてきふふあふ事
ころのつれなよふやたうら

とよみそらうらうといふかたれらうらああり

きりうらうらとこれやありうらああり

女御 後四位下藤多如美子右大臣良相女嘉祥三年
西条右大臣 女御 天安二年十一月十四日卒 安祥寺 五条后頼子建礼寺也
良相一男 常行 貞観六年正月十六日 各議八年十二月十六日 右大將 元
業 平貞観七年三月 右馬 从 天安 卒 女御 法皇 必何 若 後 追 善 元
いしきうらうらとこしやす女御あうらうら

勢はくあちるのみりさ安祥寺うら志くらた大
ねゆらうらうらゆきとふらうら

うらみりさふまうたたまひてかふふふらあ
大子 康親王 仁明 弟 四品 彈正 右 衛 尉 山 科 言
貞観元年五月入道 同十四年薨 四十二
せんのみいあうらうらうらうらうら
おしきうらうらとせかしてあうらうら
うらふまうたたまうたうらうらうらうら

うらやよんくううよみきり御木ほらうら
きりかちうかたよあり

我うふひのらあうる多とうんはきき
其多をそまうから後うらんま

これちあううすのみこの時の人中ねらみとあ
貞親親王清和才八母中細て行平女延元十三歳薨年十二
いもくろあふの中細をゆきひのむとあはる

昔おとるつら家よゆらの花うらん人あり
くらやうひのほこもりふうた日あちそあうらよん
のりらんおまそそまうすそよあり

其ぬきほらう志わそありほらう年乃因り

ころんハのくも何しやありんを

源融 源融才十二源氏母五位下大原全子貞親吉成八月廿昔任左大臣元大細言五十二仁和三年後一任寛平元年薨七歳八月薨七十三

いーたのおないまうらそかんいまそかりくらか
河のほらり小六條つらり小家とてありら
ほらりてまみたまひくら神お月のほこありら
まて花うらそまらなるよもみら乃らら
小んゆらありみこそらかうーさあそそ教部
よまげのらうーあそそて教あまそそゆわ
よこまのあうららそそあじうらういよこ
小ありきらかたわあうかぬーさそそら

もをありき人よそ風よもかたそそくあり
あふかきふいほつきはまじ朝かたふ
けりすうあひこころふうあん

かあじふきつろしむらのらういさたりたりふ
あやしくあけろさあかたりたりみ
く六十よくれ中ふきふ海よりふあはあ
そ海あがりくさされふあじかのかさあふ
うをさそそそはくふいほつきはまじ
くふ

惟高文徳中一母後五位紀靜子 名鹿女 四品号小野宮

いーこれころのみこともすんこあうま

ふまきああふふれせといふあはまありたり
年一とらけくこの花さるふはうそあはまじ
かりまきほろう乃時右のむさろか人ありたり
人とほふあそたうまーくま時母ていさ
ーくならふふれしうの人あむりはれはたりか
まを編んこふふしせそまけとれまほやま
あふかまうたりいまうりまかこのあはまの
家ろあんのあうーこふありうーろ本あ
よあうわそ枝とれまそかきーふあーてかみあ
そふかうーまきりむさろくまらたり人あ

おろりてまよひつせぬぬ敷くもあまてまげら
おろりしてあつ〜はみこまひてい〜いまひか
しらす十日の月にかんぢあひいよあひかのひ
まろみのおろり

あつな〜おゆいよいも月乃かくおろり
おのこあまをい〜いおあ〜あ

みこおろりきそ〜さおろりてまてありおろり
ち〜あつてあ〜い〜い〜いおろりあ〜い

後橋
江戸
参雄

山は〜な〜い〜い〜い〜い〜い

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

秋の〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

貞観七年七月

たまうてたりし月ふかきまづし心とて小
蹄ふ海うてきろふをえの山乃娘とあるは昔
はたらし志のそみじろよまうておうそきを
まうはははしこいとおうかしてかうま
ふれしやをいしくさうひて作うく乃こか
と思てまこえたりあそをあうてをてうま
あんとおほやきこもあうたれをえあうて
ゆふたれはわらうそ

巨し

つとれてし夢うとう思たりのまや
ゆきぬこはまて悪を思んそ

そそあむなしくまよなる

いしわたる有るものやうかうそ
まありたりうたうたうたうた
まひたりよの京よまはるん
しとれと志しえまうてまをうそ
ありたれしやうかう志のうたりさうふし
あそりふとみ乃こそそは娘とありおうそ
たれしやあり

巨し

若ぬまてあうわらうてあつて作ん
いよくんまうかまはるん

かろいぬくちあきくよゆら

伊登内親王 貞観三(西九月薨)

世中よあつぬりし事乃たなくも那

ゆらうのいのり人のこたえたぢ

昔はと存多りけりはらほまじりけり
きみぬくあつたまきく心月よあ
とゆつてくらたほもきのみもほく
ゆのふえまきつてまされとめのみ
てまきつてくらよあん有るじ
一人うくたろせんあつあま
まき心月なまきつてくらよあ
まき心月なまきつてくらよあ

くらゆきいふとらとゆつてまねのすおや

まね人あひつてまきつてくらよあ

くらゆきいふとらとゆつてまねのすおや

まね人あひつてまきつてくらよあ

くらゆきいふとらとゆつてまねのすおや

まね人あひつてまきつてくらよあ

くらゆきいふとらとゆつてまねのすおや

まね人あひつてまきつてくらよあ

くらゆきいふとらとゆつてまねのすおや

まね人あひつてまきつてくらよあ

さしや思ひしはさしこいふておまはりたり
なまそふりたれぬんを母もあ
彩更介
とのつあはく一年のつあはて

こそおふなりおさ色女いあじいふかき
はうよあんしそよくら

ひしなはし津のくよじうたあやあやの
さふさふういそておみなりは

あしゆのたつたれおふいふくあ
彩更介
はきりとりもさすさふり

とらたりういふさふんくらとあひあ

のたさしはゆひくらこおさかきもはら
しはれおそれなたりと清ふのすげとあ
まらさふりこはたこのいふもあふかみ
たららうの家は海をらふあを
ありさしはのあみはありさふあのを
らささかしのほくんとひてのあらとんあ
うたぬさのりともあさ二十丈をらさ
むらりたうりしありてあはははははは
うらりさあひありきらあをさあははは
らさりあははははははははははは

うたのうらうらよとくつまわらぬせしむら
くらのたはまはさあまはこほほあつうこあらん
ふみかきよまはあまきすかの清ふらあま
しむ

わたつらむとさきふらあすうとまらつるむら
たもくしたたさやせほほまらきん

あましむらよとく

あまきんふらうらあつらむら白玉乃
まふく色らうらうてらせむらふ

やよちりたれしあまのんりふとよも有えん

こえのふらそくやむふらあつらうらむら
そふらあま田郷きらうらあまのまらうら
くたわやうらうらあまあまあまはほら
あまあまあまのあつらうらあま

あまあまあまのほつ河をせあまか
つらあまあまあまのきくあ

あまあまあまあまあまのきくあ
あまあまあまあまあまのきくあ
あまあまあまあまあまのきくあ
あまあまあまあまあまのきくあ
あまあまあまあまあまのきくあ

夜ふそりてか〜はとあがむてい〜きり
か〜はよかきり

後海のか〜ふすすやい〜ふ〜
さるんぬちふやわ〜さありのきり

井あうんう〜い〜いあまもりや〜
昔い〜つちいふ〜あ〜わ〜れ〜
あ〜ま〜り〜月を〜ら〜う〜れ〜あ〜ふ〜む〜

松屋〜六月と〜し〜これ〜
夜〜色〜を〜人の〜あ〜と〜た〜お

い〜も〜い〜わ〜む〜い〜我〜ら〜は〜海〜ら〜い〜

と思ふそりて年〜

を〜し〜も〜我〜い〜い〜か〜あ〜ら〜い〜
い〜の〜神〜は〜な〜名〜あ〜ん

あ〜れ〜や〜思〜ん〜あ〜と〜あ〜寸〜乃〜
と〜り〜ろ〜な〜か〜り〜な〜く〜い〜く〜又〜い〜

〜かり〜れ〜と〜り〜ろ〜かり〜ら〜あ〜く〜ふ〜

あ〜く〜花〜を〜ふ〜こ〜う〜わ〜く〜し〜ふ〜ほ〜ふ〜
あ〜た〜ら〜み〜あ〜す〜の〜よ〜え〜

と〜い〜ふ〜も〜あ〜ん〜

こころをいふは

ひうしほり河のあか貞観十七年八月廿日右大臣左大將廿七いまうらさきことやす侍

さうかりをうし貞観十七年軍士の誓九條乃家よせ

まろり回中將たりをうらなすか業平十九直任中将不審

あつら花らりうむくり色あいらく乃

こころいふたうみら海うらふ

忠仁云天安元年二月十九日右大臣廿五四日後

昔むさあかいまうらさきとさきいふあ

しかりはうまうらあさなう月将よむら乃

はかりえさふさうとけきそそそまうら

夏貞観つら平乃むきりたりふやあふ花を

さう云こころいふらねおさう存きう

こころいふそそまうらきりたれいさかこ

しかりはうまうらあさなう月将よむら乃

ひし右をこの馬場乃をとりの日むいふた

てそら軍よ女乃かふたさすれらり侍のふ

見えたれし申將たりたりたこのさみそや

る業平貞観六年三月右將七直右馬次十九直五月左将

夏貞んじもあさあさせぬ人のしり

あわたくくわなうちらうさ

を

夏

あつらぬなふりあやあへりきといふ
あひろともうあつらありたれ

ららそそれらういふなり

しーたそ後涼殿のしあきとりらたれあ
あやいよあふんろほあひのりますあひ
とあひふくあやうあそいふあひらき
あひたさあひらき

馬草あつらりいそきあつらあひ

こころのふありあつらしたのまん

しーたあきあつららるる在原のあきとい

ふあつらうあひの家よあひあひあひあひ

小あひあつらあ中あひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひあひあひ

ひまれと志わくくもせられしかるらん

あく花乃ちいよかく行くらんあかみ

あつしよふまらるゆらるけう毛

なまかろしきよしむいをたれとあかきあしき
い花のあつらふみさううまそそ花氏のいさ
ゆふよちりひしてよちりいあんひさるみおむ
そしらすたらふふた

ひーたさいるらういさい海らきた
を思しあつらるあてたろ女はあふたろそ
世中と思しんてい家もあすらるらるら

さふふみかろまそと志そくありたれしよ
てりまらる

うしそそそ書ふそあむた
世中うまきこころう前よたうてふ

とあんひわいさるる舞文のま也
ひうしあきい存るりいそあふしら
あつたろんあらきりいあむたみよあん
はらまらりきりらあむまらきらきみ
らあはらひたまひさるんあひらりら
そねあつ花のまそそらうなままらるら

むしあそなうおさこありたりそんたはこい
なるなるんと日記よ者なるもらけ世行母記名虎女
ゆきいふ人よまひくらされとつたれとわに
むしこすこも色ひくす付いんや
ういふ海からたれしかのあつーあつんあんを
かきそくせそやうたりやそんまひよくらそ
おさこよちか

巨々
うそのみひらてあふうーもたうー
おしむいのたさの女ようりて

あさみこうそそそをほくち海川
巨々
おあんかうそさくふそめまじ
おしりたれとねこいと侮そうそいまそ
ゆきそぬまこいふむそありとあんいふあつたさ
あそとら勢そらえそらら事ありたりあち
のちよあまよあんとりつひ持らめさいん
何らこいあちこうーとらりたれとむいん
おさこ女ようりてよみてわらす
おさこくよ思ひちのうそいん
巨々
おとーろ西しあうらうまのあつ

やまなしてしむらりなれたる女のしなさいしちりあり
てしちりふちむしてむらりふらり
ちり女をいひくゆるいひる

ゆめむらりいひるふゆむらりししなむらりや
しちちりいひるむらりむらり

とゆめむらりいひるむらりむらりむらりむらり男
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらり

むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり

むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり

むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり
むらりいひるむらりむらりむらりむらりむらりむらり

まゝいんあんをいふらるゝのふ

あ

あゝいんしりあうゝとすうもさひあゝ
後撰 わらうゝとすういんすうあうゝ

又あ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ
後撰 とすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ
いんしりあうゝとすういんすうあうゝ
いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

あゝいんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

あゝいんしりあうゝとすういんすうあうゝ

あゝいんしりあうゝとすういんすうあうゝ

或幸不可有之と多幸不可有之
いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

いんしりあうゝとすういんすうあうゝ

きふもろりやうきつしなうくあり

不ほやけの百々一きあしりきりよめつうひ
と思ふれとつらあんとしうくあひきりや
じうみらろくあておまに女とみくらあま
えういあんといふに女かあうてしま
らふじきとそいせじとよのおそみやう
まといふあまのさげのまをてしあう

貞 ちんたれおそ男とやくらもあまの
賦 弁えう一すつられたらり

じうもいさうらよみらのくふまをい

いふくら京よあつふんよひやる

推 遣 浪うよまみゆうこいぬしんま
可 察 ひ じうくならあまはあひかん
何事色みあうありふくらとあんじや
らる

じうみまは信者よ行幸し路々り

貞 我んくしむさうくならぬ信者乃
信 者 さ うのひちねくうつあかん

不ほん神けまらうて

初身心宿まうとあしあうかみくはうまの

ひさしきしむらひのむらさき

昔おとこをさしとくもさしとくもさしとくも

色なきしむらひのむらさき

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ

春玉えぬ人のうけつゝもよみあ

ひさし女のおとこをさしとくもさしとくも
うらわしきむらさき

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ
春玉えぬ人のうけつゝもよみあ

昔おとこをさしとくもさしとくもさしとくも

のむらさきのむらさき

近頃なまらけくもよみあまのふりあはれ

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ

ひさし女のおとこをさしとくもさしとくも

うらわしきむらさき

うらわしきむらさき

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ

ひさし

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ

春玉うけつゝもよみあまのふりあはれ

しうなさいらふしあかしくあむさむらう今
ふらうらわそのたさ水てふふむし
あふ
きよのうーかひーかふいよありたり
せむやましーしーもせむ

しうーあさいありたり涼草ふすみらう女を
あしくあさいーいよや思はんわらうーいよみたり
あ
年とていよみーあさいーいよ
作と涼草野とわらうらん
女也ー

あ 野とわらうらうはうはうとありてたまきいよん

あふふふやをきしーあーい
こふありたりよあさいーゆしー思ふらんか
あふふきり
しうーあさいーあさいーあさいーあさい
ふらうらう

あふふふいよさうきよふやいあふ
あふふふーあふふふーあふふふ
しうーあさいーあさいーあさいーあさい
あふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふ

濃權守同正八月平

年五月

親王

平城寺三女正五位下 蕃良藤繼女
兼和九年十月薨贈一品

行平卿 阿保親王一男

行字

天長三年 仲平行平 守平 業平賜姓在原

朝臣兼和七年正月藏人十二月辭退七日後五下

正四位 十月二月侍後十三年正月後五上任左兵衛佐

五月右近少将仁孝三年正月五下右衛門二年正月

四位因幡守四年兵部大捕天安二年二月中務

大捕四月左馬頭三年正月幡一人守貞觀二

年六月内近頭八月廿六日左京大夫四年正月

信濃守同月後四上五年二月大藏太捕六年

正月十六日備前權守三月八日兼左兵衛督八

年正月正四下十年五月兼備中守貞觀十二年

二月十三日參議五年三月廿六日左兵衛督十四年八

月廿一日藏人頭左衛門督十月十四日別當十五

年後三位大宰師元慶元年治部卿六年正月

月中納言六十五八年正月三位民部卿仁和元年按

察仁和三年四月十三日致仕寬平五年薨

紀有常

兼和十一年正月十日右兵衛大尉嘉祥三年四月
二日左近將監四日藏人五月十七日兼近江權大掾
仁壽元年七月廿六日兼左馬助十一月甲子後五
位下二年二月廿八日兼但馬守三年正月十六日
右兵衛佐四年正月十六日兼讚岐守轉左兵衛
將衛二年正月後五位上同十九日左近少將天
安元年九月廿七日兼少納言二年二月五日兼
肥後權守貞觀七年三月九日任刑部太輔

九年二月十一日任下野權守十五年正月廿七

日正五下十七年二月十七日任雅樂以十八年

正月七日後四位下十九年正月廿三日卒年六十三

二條石 中納言左衛門督贈太政大臣長良女母紀守綱繼女

貞觀元年十一月廿日後五位下五節舞妓貞觀八年

十二月女御宣旨九年正月八日正五位下貞觀

十年十二月廿六日生弟一皇子廿七十一年二月

帝少年十九

立為皇太子十三年正月八日後三位元慶元年

正月三日即位日立為中宮廿六六年正月七日為

皇太后宮寛平八年九月廿一日停^{トム}后位^{ウチ}延喜

十年十二月薨^{六十九}天慶六年五月追^{オク}復^ス后位

河原左大臣融 嵯峨中十二源氏

兼和五年十一月廿七日正四位下^{元服日} 六年正月

乙酉侍从八年正月相模守九年九月己亥近江

守十五年二月右近中将兼美作守嘉祥三年

正月七日後三位五月右衛門督仁寿四年八月兼

伴势守齐衡三年九月任参议右衛門督、

伴势守如^元

かろへた〜

万葉集第十八

か〜とす^トすこよ^トか〜とれ^トを

か〜よ小かろへそのつもとを

月夜や あすもくも

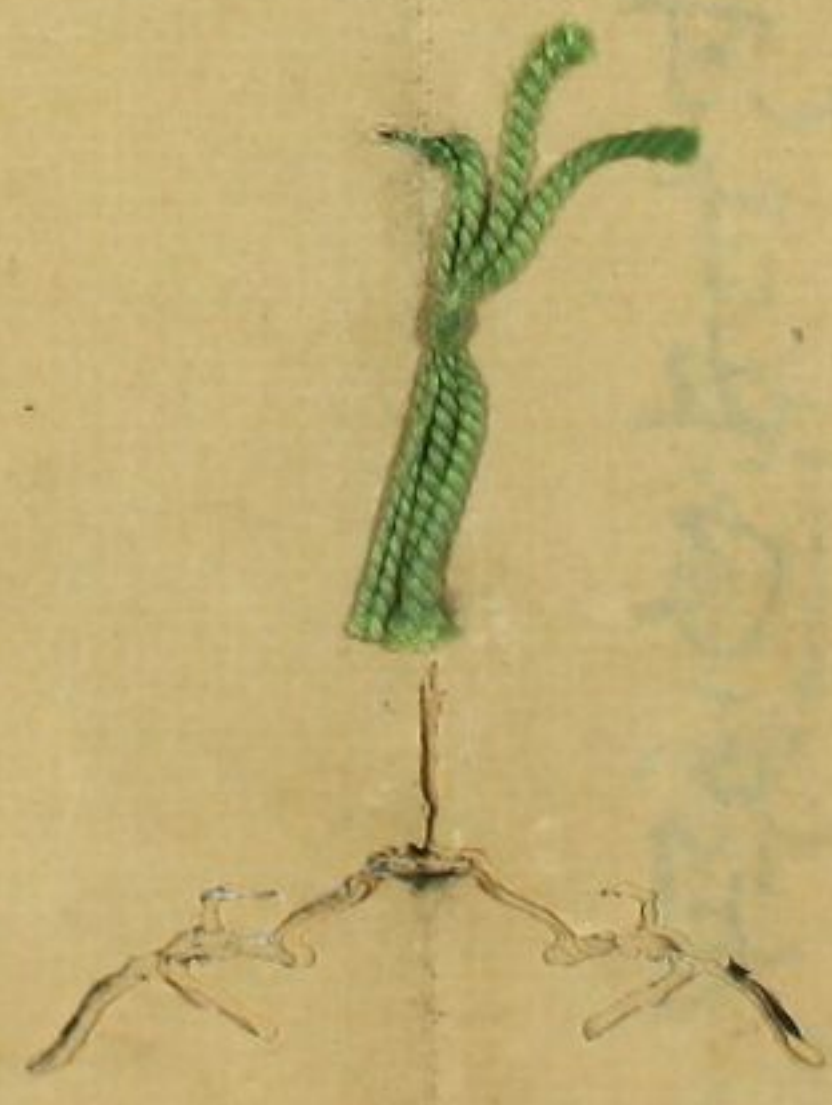
六帖奇

い〜とえふか〜か〜さ〜ゆえ行乃

〜とえや〜れ〜ぬ〜りか〜

宋玉神女賦

素質貞幹之醴^{十九}實^{十九}考志解恭體^困



曹子建洛神賦

瓌姿艷逸ヨシカミ儀靜體閑シツカミ

みやひ 凡や 乞うや とのふ 詞

其心まやひとかなすあといふふあきとふふ日

心事を

天福二年正月廿日己未申刻凌桑門之

旨目連日風雪之中遂此書寫為授

鍾愛之孫女也

同廿二日授

別本奧書

合多本刑用捨也スル可備證本

近代以將使事スル為端ハシ之本也末代之人今安未也ス更不可用之

此物諸古人之說不同或稱在中將之自書或稱作勢カ之筆ト作統ト彼此有書落事ス未上古之人強ク正可為ス作者ト只可モト觀ス詞ト花言ト集ト而已ト

戶部尚書判

又別本奧書

抑作勢物語根源古人說不同或云在原中將自記ト固ニ最ニ有ニ其謙退北興之詞等又云作勢カ筆ト也或云生年十三行也似彼家

集文勢是故号イラヤ作勢カ物語以此ト為ス說ト案ト之更難考之心中秘密身上興言他人推而難シ注之ト以テ之ト謂ス其自書歟但類ハ刀葉古風之中多載撰集之歌ト仁和至日之間ト起ス記ス條ス章ス之後ト式ト亦ト事ト又不レ當レ作カ勢カ集

其端文辭偏以同之是又見先達傳記
唐^{コト}笑之^{カク}神歎^{カク}兩不^{カク}意之^{カク}加之此物諸名字
非彼筆志何稱存勢乎或說云為將使
下向存勢似有此名之說又難信始則載
南京春日之說次又注西對夜月之思當土
山之雪或為野之煙凡非存勢圖事多以
為此物語之肝心仍兩說共有不害古事
只作向可信又或說後人以稍使事改為此
草子之端為^{カク}存勢物語之道理也^{カク}併

本據^{カク}存^{カク}奇^{カク}恠^{カク}者^{カク}也^{カク}存^{カク}行^{カク}不^{カク}為^{カク}也^{カク}不^{カク}用^{カク}之^{カク}
先年不書之本為人^{カク}被^{カク}借^{カク}矣^{カク}仍^{カク}為^{カク}備^{カク}
證^{カク}本^{カク}重^{カク}所^{カク}校^{カク}合^{カク}也^{カク}

戶部尚書^判







ア



Handwritten mark or characters in the center crease area.

